協議のテーマ

「地域社会に参加できない人にどのようにアプローチしていったらよいのか？」

【事務局説明】

◎前回の会議では、「シニア世代の社会参加について」にしぼって3つの視点からご審議をいただきました。

(1)の「地域に関わりたい」という気持ちを行動に移すための後押しをする方法やきっかけがつかめない人へのはたらきかけで効果的な方策として、情報発信、手段、仕組み等について

- ① 一人ひとりに「役割」を持っていただき、活動のなかで自己存在感を高めいただくこと
- ② さまざまな活動をとおして人間関係を醸成していくこと

の2点をまとめていただきました。

(2)の「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」については

- ① 自治会や老人会などの横の関係だけではなく、もう少しゆるやかな「必要な時につながる」関係であり、
- ② この関係の確立のためには、声かけを大切にすることだけでなく、知的好奇心にはたらきかけることや活動参加のきっかけづくりが重要である。

とまとめていただきました。

(3)の「きっかけをつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」については、

- ① 事業に関する情報提供とともに、活動をとおして自らメリットを感じていただくことや
- ② 運営者或いは地域のイベントをつくっていく側に立つという主体性を培うことも重要であり運営側の企画の工夫も必要である。

とまとめていただきました。

本日の会議では、前回の会議でお示ししましたとおり「若い世代の社会参加」についてご審議いただきます。

本市の特徴として

- 1 20歳以上45歳未満の若い世代が多い。

- 2 東京23区への通勤者が多く、住宅都市としての性格が強い。
- 3 市民意識調査では、本市の出来事や動き、住まいの地域や出来事に「関心がない」「あまり関心がない」という回答が80%を超えている。
- 4 単身世帯が一般世帯の約40%をしめ、昼間流出人口比率が高い。
また、転出率及び転入率が高い。

ことがあげられております。

和光市には25歳以上45歳未満の方が28,500人ほどいらっしゃいます。

総人口は82,000人弱でありますので、この世代の方々が人口の三分の一以上を占めていることとなり、特徴的であります。

和光市へ転入されてきた方やこれまで地域社会とのかかわりが少なかった方が、子育てをとおして、また、きっかけとして、地域社会への関心を深め、積極的にかかわっていただくことは、地域の力を高めていくことにつながり、地域の将来にとっても重要であると考えております。

本日の会議では、

「これまで参加経験はないが、子育てをきっかけとして、子育てをとおして地域での人間関係を深め地域社会に参加しようとする方」に焦点をあてて、前回と同様に

- (1) 「地域に関わりたい」という気持ちを行動に移すための後押しをする方法やきっかけがつかめない人へのはたらきかけで効果的な方策
- (2) 「地域に関わりたい」という気持ちを醸成するための「今日的つながり」
- (3) 「きっかけをつかめない人に主体的に参加を促すための機会づくりや活動支援」

という3つの視点についてご審議をいただきます。

◎また、「地域活動」とはどのようなものかについては、前回と同様広く以下のものを想定しています。(板垣委員のアンケートより)

地域活動の種類

- ・健康、スポーツ（歩こう会、野球指導等）
- ・趣味（俳句、音楽、ガーデニング等）
- ・生産、就業（シルバー人材センター）
- ・地域行事（祭りの世話役等）
- ・安全管理（交通安全、防犯パトロール等）
- ・高齢者支援（家事援助、話し相手等）
- ・教育、文化啓発活動（学習会、子供会育成等）
- ・子育て支援（保育手伝い、読み聞かせ等）

自治会やボランティアのような地域社会に貢献する活動ばかりではなく、「自分の好きなことを生かして、一人でも多くの人と交流し、つながること」や、地域住民が笑顔になるような活動も含まれます。